

会 議 名	令和6年度第2回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開 催 日 時	令和6年9月20日（金）18時30分～20時00分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 原田隆司委員 畑島一代委員 平田勇治委員 中川法子委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	コミュニティ文化課文化推進係 津端 佐原 同 はけの森美術館学芸員 中村、河上、五木田 同 はけの森美術館学芸顧問 河合		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	（1）事業報告等 （2）意見交換 （3）その他、次回日程調整等		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	資料1 教育事業報告 資料2 日程表		

【鉄矢会長】 皆様、こんばんは。本日は御多忙の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。ただいまより令和6年度第2回小金井市はけの森美術館運営協議会を開催いたします。

本日の配付資料の確認を事務局のほうでお願いいたします。

【事務局】 事務局です。資料の確認をします。次第のほか資料が2点ございまして、ホチキスどめの資料1、あと1枚で資料2がございまして。

また、開会に先立ちまして、事務局より人事について御報告させていただきます。

学芸員の西尾が3月末で退職して、前回の運協の際は後任がまだ決まっていないということで御報告をさせていただきましたが、7月1日付で学芸員が採用になりました。五木田さん、一言お願いいたします。

【五木田学芸員】 こんにちは。はじめまして。五木田聡と申します。今年の7月1日から学芸員としてお世話になっております。私、八王子に在住しております、小金井市民ではないんですけれども、このたび縁があって、こちらに就職することになりました。

私、個人的なことなんですけど、40年間、八王子市にあります東京富士美術館というところで働いておりまして、もう相当年になっており、何でこんなおじいちゃんが来たのかと、皆さん戸惑っているかなと思います。ここは伝統的に若い世代の女性学芸員さんが活躍する場だというふうに私も認識しているんですけど、突如こういう男性、しかも高齢の者が来たということで、本当にすみませんという感じなんですけど。勤め出してまだ日も浅いので分からないことがほとんどなんですけれども、皆さんの様々な御指導をいただきまして、しっかり職務を全うしていきたいと思っております。

ちなみに河合先生、山村先生の同窓でして、河合先生と山村先生のちょうど中間地点ぐらいに私がいるという感じなんです。そういう母校にも縁のある場所ということで、私も少しうれしく思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】 では、次第1、事業実施報告等について、事務局からお願いします。

【中村学芸員】 では、実施した展覧会・教育普及事業等の報告に関しまして、学芸員の中村より、まず初めに報告させていただきます。

1の展覧会ですけれども、こちらは前回、第1回の運営協議会におきまして、一部のところは既に報告済みですので、今日は、こちらの部分、まだ報告していなかったところを中心に報告させていただきます。

まず、入館者数ですけれども、こちらは資料の1、冒頭のところにございますように、

有料の入館者が小計で856人、無料の入館者が336人ということで、合わせて1,192名ということで入館者がございました。こちらは招待の人が259人おりますけれども、この招待というところは2ページ目にかけてのところで、一番最後の(3)のところですね。カタログフェア・無料開館日というところがございますけれども、この部分にありますように、②の中村研一の誕生日を記念した無料開館日に入った方というのを含んでおります。こちらの方が入館者数で申しますと161となっておりますので、この入館者数で言いますと、招待の方の中で一定の方がこちらの2番目の無料観覧日のところに入ってくださったということになります。合わせて、一応というか、久しぶりに1,000人を超える所蔵作品展になったということで、こちらの「中村研一の往還」展に関しては無事に終了いたしました。

展覧会に関しましては以上となります。

教育普及事業に関しましては、既に実施したものを含めて、今後のところにちょっと入っているものもありますので、次のところで報告させていただきます。

【鉄矢会長】 ありがとうございました。

では、引き続き、次の今後の予定についてもお願いします。

【河上学芸員】 学芸員の河上です。今後の展覧会・教育普及事業について、御報告申し上げます。

1番の修繕休館に伴うイベント・ワークショップ、その他単独イベント・ワークショップというところなんですけれども、前回の運営協議会のほうでもお伝えいたしましたとおり、現在、空調の工事、修繕期間中でして、完全に展覧会を行っていないという休館中の状態が続いているという状況の中で、まず美術館のほうでもきちんと活動しているというところを示すといいますか、そういったところを補う形でイベントとワークショップを立て続けに月1回から2回のペースで開催するというところで、このような企画を実施しております。実施済みのイベントとこれからのもので両方含まれますので、先に実施済みのイベントのほうを報告させていただきたいと思います。

①番のところなんですけれども、こちらはこれまでも何度か当館でイベントを開催していただいたはけの手アニメーションさんによるアニメーションの制作ワークショップというのを8月3日に行いまして、こちらは、実際はコンセプトといたしましては、今年が「花侵庵」並びに中村研一の旧宅のほうの文化財登録5周年という、そういった節目を記念した催しとして企画をいたしました。

ここでは「花侵庵」のほうに注目をして、コンセプトを「花侵庵」が古材を用いて建設されたといった背景と、イベントのコンセプトを掛け合わせるような形で、はけの手アニメーションさんが、実際に絵を描くときはけをもとにして、そこにいろいろと古材とか、あとはリサイクルできるような、そういった素材を参加者の皆さんに持ってきていただいて、それではけでお化けをつくるという、「はけ化けの森 工作ワークショップ」という、そういうワークショップを実施いたしまして、こちらにありますとおり、各回、午前と午後と開催したんですけれども、両方とも満員御礼で無事に終了しております。

これに関連する行事がまた後ほど出てくるんですけれども、先に申し上げますと、つくった、はけ化けたちを今度は緑地と「花侵庵」のほうにも展示をして、緑地でスタンプラリーみたいな形で、はけ化けを探そうというような、そういったイベントも予定しております。

これが報告、開催済み、実施済みのイベントになりまして、この後が②番、茶室「花侵庵」のこちらも文化財登録5周年を記念したワークショップなんですけれども、写真のワークショップを開催いたします。これがまさに明日、開催予定なんですけれども、こちらの講師の稲口俊太さんは、今までも志村信裕さんの展覧会のとくと、あと去年の笹川治子展のときに展示風景を記録で撮ってくださった写真家の方でして、実は、国立在住の写真家さんというところもあって、お近くに住んでいらっしゃるのと、あとは何度もこちらに足を運んでいただいて、ここの美術館のことも緑地のことも見てきてくださっているというところで、今回は、写真のワークショップをして、この「花侵庵」、ひいては緑地全体というのをワークショップを通して知っていただく機会になれたらなというところで企画をしました。これも募集を出して2週間ぐらいで満員になったんですけれども、こちらはあした実施予定となります。

③番が子供向けのワークショップ、こちらはヒノさんからでもよろしいですか。

【中村学芸員】 分かりました。では、③番のほうは学芸員中村から説明させていただきます。

③番の子供向けワークショップ「からっぽの展示室をみんなでいっぱいになろう」というふうに出したものですけれども、こちらは見てのとおり、当館は現在修繕中でして、1階の展示室のほうも修繕のために全て一旦、什器などを撤去しまして、空っぽの状態です。空調の修理を行っております。ということで、この空っぽの展示室という空間を活用して、ふだん展示室ではできないような子供向けの創作ですとか、実際にその空間の中で絵を描

いたりするという、そういうワークショップをやってみようということで、今、計画されているところでいうと、空っぽの展示室の中に人形劇と絵本の読み聞かせブースとそれからお絵かきのブースができるという、そういう形で考えているワークショップです。こちらはこごうちぶんこ ことりのへやという、地域ですっと活動されている児童文庫の皆さんが講師をしてくださる予定でして、今ちょうど講師の皆さんのほうで、それぞれの内容の準備をしたりですとか、それから美術館のほうでも展示室のほうでお絵描きをしたりするというので、画材の調達ですとか、そういった準備を進めているところです。9月16日からこちらの申込みがスタートしたんですけれども、実はかなりいいペースで申込みが入ってきておりまして、25人定員ということで、程なくここがいっぱいになるのではないかという見通しです。

③に関しましては以上となります。

【河上学芸員】 続きまして、④の「みつけた！はけ化けの森の展覧会」という、こちらのイベントは、①番の「はけ化けの森 工作ワークショップ」と、先ほど御説明しましたとおり、関連した、スタンプラリーのような形式の2日間にわたるイベントとなっております。会場としては、茶室の「花侵庵」、あとは美術の森緑地、この裏の森一帯と、最後、はけの森美術館2階ラウンジとあるんですけれども、こちらこそこのラウンジのほうを会場にして、お化けたちを展示して、みんなで見つけていくというような。なので、実は、会場が緑地だけではなくて、美術館のほうにも少しだけ足を踏み入れるみたいな、そういった形になっております。こちらは事前申込み等ではなくて、参加費無料で受付が外に設けられる予定なので、展覧会会期中、これは11月9日と10日なんですけれども、既に次の企画展がスタートした後になりますので、展覧会の入り口とはまた別のところで受付をしてというふうに催される予定です。

さらには、11月9日と10日というのが、毎年、都の事業の文化財ウィークというのがございまして、都内の文化財を積極的に公開して見せていくというような事業なんですけれども、それに毎年、当市も参加しておりまして、この「花侵庵」というのも文化財の一つのスポットになる予定ですので、文化財ウィークが11月2日から、はけ化けの森の展覧会の2日目の10日までを予定しておりますので、最後の2日間のところが重なってくるかなと。ですので、参加者の方はお子さんとかが多いかと思うんですけれども、文化財ウィークで文化財を見学したり、見に来てくださるお客様も中にはいらっしゃるのかなというふうに想像されます。

4 番は以上です。

続きまして、⑤番に関して、津端さん。

【事務局】 ⑤番の散策イベントということで、去年も散策ワークショップということで開催したんですけど、とても人気だったので、今年も引き続き開催しようかなということで企画をしてみました。

12時40分集合で、午後1時から散策して午後1時50分くらいには帰ってきて、その後、午後2時から始まるギャラリートークに参加していただく、という流れで散策をしようかなと考えております。実は、今、話に出た「まちなか案内人」というのは委員の原田さんのことでして、今年の散策ワークショップの講師は観光まちおこし協会でまちなか案内人をされている原田さんをお願いをさせていただくことになりました。定員20名程度で11月1日号の市報で募集を開始する予定です。よろしくお願いいたします。

では、続いて⑥番も。⑥番は附属喫茶棟との連携イベントということで、去年、喫茶棟のオープンに合わせて一般市民の方にアンケートをとった際に、「どんなイベントをここでやっていたら来てみたいか」という趣旨の質問をした結果、なぜか音楽イベントが一番人気があった、という話を店主の方にしたら、音楽イベントをやってみようというお話になりました。喫茶棟にて「音楽と食事を楽しむイベント」ということで、yutaka hirasakaさんという方のギター演奏のライブを喫茶棟のほうでやりながら軽食も楽しむという形で実施することになりました。募集したのが先週からなんですが、1週間ぐらいでほぼ定員になり、アンケートで人気だったから応募も多いと感じたところでした。

私からは以上です。

【中村学芸員】 続きまして、今後の展覧会の予定について、中村より報告させていただきます。

2)の展覧会のところですが、2024年11月2日から2025年1月13日の会期を予定しておりまして、「富永親徳という近代洋画家がいた一場所と記録をたどるー」という展覧会を予定しております。こちらの展覧会の概要については4ページにかけてのところに入っているんですけども、概要のところの一番下、本展に関連する研究助成というところに公益財団法人ポーラ美術振興財団の名前がございますが、2022年度に当館のほうで富永親徳という画家について研究助成をいただきまして、この富永親徳という、現状無名であって、ただ小金井市内に作品が残されているという画家についての調査を行いました。調査の結果、こちらの画家が中村研一とほぼ同時期を生きた近代洋画家

であるということで、残した作品のうち作品・資料計100点を当館に寄贈いただくということになりまして、こちらを当館のほうに既に寄贈いただいて、当館の所蔵作品という扱いになっているんですけれども、こうした形で中村研一の作品以外の、しかも富永親徳という、今までほとんど知られていない画家についてのものが当館に入ってくるというのは初めてのケースですので、今回のこの展示に関しましては、こちらの作品、資料計100点を展示するということをまず軸にしております。その中で、この画家はどういった画家だったのかというのを紹介していくという、そういう形で今考えております。

関連企画に関しましては、ここに記載してございますように、イベント、ワークショップ、ギャラリートークということで、いろいろな形で計画されているんですけれども、まず1つ目、展覧会プレ企画の台湾アニメ映画「幸福路のチー」上映会、河上さんから補足いただいてもよろしいでしょうか。

【河上学芸員】 こちらが展覧会の開幕に先駆けまして、その前の週の10月26日に行う関連イベントでございます。こちらが台湾アニメ映画の「幸福路のチー」という、アニメーションの長編の映画なんですけれども、こちらは様々な場所で賞なんかを受賞していて、実際アニメなんですけれども、かなり大人の方に見てほしい内容の、大人向けと言っても過言ではないような映画になっております。ですので、対象は一応小学生以上とはしているんですけれども、恐らく小学生だとちょっと難しいかなというふうな反応があるかもなというところで、今、キッズスペースをその日は設けて、親子でも来られるという状況をつくりつつ、お客様をお招きしようかなというふうに考えているイベントです。こちらは参加費が400円なんですけれども、展覧会のチケットがついてくるというようなところですので、プレイベントで来ていただいて、台湾という、展覧会のキーワードになるような国、地域のところの雰囲気を知っていただいたところで展覧会に足を運んでいただければというような狙いがございます。これも募集はまだこれからです。

【中村学芸員】 ありがとうございます。

では、続きまして、②の水彩画ワークショップのほうですけれども、こちらは、実は2018年まで当館のほうで複数回にわたって、アニメーションの背景の技法を使って水彩画で、色を塗ったりですとか、絵を描いてみたりするというワークショップを継続的に手がけてくださった牟田いずみさんを講師に迎えて、水彩画ワークショップということで、また久しぶりにアニメの背景絵を塗る技法を使って絵を描いてみようというワークショップを計画しております。こちらのワークショップは、2018年までに行っていたときに

は非常に人気のワークショップでして、継続的に参加して、このワークショップでアニメ制作に携わりたいと思って、美術系の大学に進学したという学生がいたぐらい、そういう深い思いを持ってくくださる方たちもいたんですけれども、その後、牟田さんのほうで私生活との兼ね合いということで、しばらくこちらのワークショップを離れられていたんですけれども、今回久しぶりにということで行うことを予定しております。

③の企画展特別レクチャーですけれども、2025年1月11日に、講師として府中市美術館の学芸員である志賀先生をお招きして、トークをしていただくということで計画をしているんですが、先ほど河上のほうからもちろっと言及があったように、実はこの富永親徳という画家は非常に台湾と関わりの深い画家でして、恐らく11歳か12歳ぐらいのときに家族で台湾に渡って、台湾で石川欽一郎という当時の台湾総督府の通訳官に就任していた人から写生を習っています。この石川欽一郎という人は、そういうふうに役人とかをしながら、水彩とか絵を描くということに対して尽力した人で、特に台湾では台湾美術の中では父というふうに言われるような、非常に大きな影響を残した人なんですけれども、その人に台湾時代に富永親徳氏が習っていた。恐らくそこから生涯にわたって、彼は石川に対して非常に強い敬慕を寄せていたということが分かっていますので、特別レクチャーにおいては、志賀先生にそうした石川欽一郎のほうをテーマにして話していただくということで、現在準備を進めております。富永親徳だけではなくて、台湾画壇というものを考える上では非常に重要な人物ですので、そうした富永親徳に関わらず、それ以外の台湾の画家たちというものも含めて御紹介いただければというふうに思っております。

④番のギャラリートークですけれども、こちらもそうした富永親徳の調査を今まで行ってきたことに関連するんですが、ゲストトークによるギャラリートークというのを予定しております、ここで当館のほうを昨年度、退職された西尾さんが、実は、埼玉県立近代美術館の学芸員として、ゲストトークとして参加してくださることになりました。やはり2022年度から富永親徳のことを継続的に調べていくということの中で、西尾さんが調べてきたことですか、そういったところをぜひ今回、ギャラリートークの中で、展示作品と併せて皆さんにお伝えする機会があればということで、ここでそうした日をセッティングしております。

先ほど散策イベント、3ページの⑤のところ、こちらのものと照らし合わせていただきますと、11月23日同日開催なんです。さっきちろっと説明がありましたけれども、こちらの散策イベントに参加して、そのまま美術館でギャラリートークに参加するという流

ることができるようにということで、時間などを調節しております。ということで、5番の散策イベントに参加した人をそのままゲストギャラリートークに呼び込もうという、そういう流れになっております。

それ以外に当館学芸員によるギャラリートークということで、12月14日に午後2時からとなっているんですけども、現在予定していますのは2時半からということで考えているんですが、ギャラリートークをもう一つ行いまして、ギャラリートークとしては会期中に2度行うということで準備を進めております。

今後開催予定の展覧会及びイベント系のものに関しましては、報告、以上となります。

【鉄矢会長】 ありがとうございました。

何か質問、御意見等ありましたら、お願いします。

【原田委員】 今の最後の時間確認です。ギャラリートークは2回あるんですけど。

【中村学芸員】 2回あります。

【原田委員】 2回あって、2時半からというのは。

【中村学芸員】 当館学芸員、私ですけども、私が担当するほうが2時半からということで、今予定しておるところです。12月14日土曜日のほうです。

【原田委員】 こちらが2時半から。

【中村学芸員】 2時半からです。

【原田委員】 23日は2時からですね。

【中村学芸員】 2時からです。

【原田委員】 分かりました。ありがとう。

あと質問よろしいでしょうか。先ほどのお話で富永親徳に絵を教えた石川欽一郎という人はどういう人ですか。

【中村学芸員】 石川欽一郎という人ですね。日本では特に水彩画の、日本水彩画協会だったかと記憶していますけれども、設立に尽力した人として知られていて、日本の水彩画の黎明期、石川のほかに三宅克己なんかもいるんですけども、そういった人たちがそういう設立に携わったということで非常に知られている人です。当館ですと、昨年度、丸山晚霞という作家を紹介しましたが、丸山晚霞なんかと非常に関わりが深くて、あのあたりの人たちが日本の水彩画の礎をつくったというふうに言われている人です。ですが、一方で、実は2回台湾に行って、台湾の総督府で仕事をしている、実は石川欽一郎は専業の画家ではなくて、通訳官をやったりですとか、役人としても結構優秀な人だったと

いうことで、その縁で台湾に行って、役人として任につく傍らで、実は台湾の学校で美術を教えている。このときに知られているのは、どちらかというと台湾の現地の画家たちに対して洋画の教育というもののすごく基礎的なところをつくって、そうした台湾の中で洋画を体系的に学ぶというのはまだ組み上がっていなかったときに、そういう人たちを熱心に教育して、日本の東京美術学校に留学するという手はずをつけた、渡りをつけたという人として知られています。実際に性格としても教育者として非常に優れた人であったようで、今でも台湾ではその部分で非常に評価されている人だということなんですけれども、一方で、統治時代の日本人の子弟に対してどういうことを教えたのかというのは今まで実はそんなに目を向けられてこなかったんです。ただ、分かっているのは、台北一中という当時の日本人向けの子弟の学校の中ではトップの学校で写生班というものを立ち上げて、そこに通っていた学生たちに向けて写生を教えている。富永親徳の入学年度を考えると、恐らく富永親徳は台北一中に入学してすぐに石川欽一郎の写生部に入って、そこで絵を描くということを写生として習っているはずですよ。その後、富永親徳も何だかんだ言って東京美術学校に入りたいということで、台湾を離れて日本に、東京に戻ってくるんですけれども、恐らくそこで石川欽一郎との縁は切れてしまったのではなくて、10年以上にわたって、恐らく先生として非常に尊敬することが続いているんですね。

東京美術学校を卒業するときに台湾に里帰り展みたいなのをしているんですけれども、その里帰り展に対して、石川欽一郎が新聞に富永君が台湾に帰って展示をするということで、こんなにうれしいことはないみたいな、とても頑張って画家になった人で、そういう富永君のことを自分はとても評価しているという、非常に好意的な記事を載せていますので、そういうところで見ても、非常につながりの深い人物だったと見ております。

【原田委員】 ありがとうございました。

【鉄矢会長】 面白いところに立ち会えるのはうれしいですね。本当にこの富永親徳は評価が出てきたら、この美術館初という素晴らしいことになるかと、ちょっとわくわくしながら立ち会わせていただいています。

よろしいですか。

【山村副会長】 すみません。つまらない質問で申し訳ないんですけど、3ページの喫茶棟の「はけの森、コマグラ」ってどういう意味なんですか。

【事務局】 コマグラは、吉祥寺のほうでカフェをやっていて、そこがコマグラというお店というのが由来です。

【河上学芸員】 もともと吉祥寺の飲み屋さん。漢字でコマグラというところ。

【畑島委員】 漢字のコマってどっちのコマなんですか。

【河上学芸員】 コマはこういう……。

【中川委員】 駒ヶ岳の駒ですかね。

【畑島委員】 独楽のほうの。

【河上学芸員】 だと思うんです。そうです。

【原田委員】 独楽ね。回す独楽。

【畑島委員】 くるくる回すほうの。

【河上学芸員】 こっちだと思います。独楽の独楽ぐらで、私も飲み屋時代しか知らないんですけど。それを、細かい話になってすみません。コマグラは多分、もともと飲み屋さんの名前としてついて、それがカフェになったときも引き継いだというふうには。

【原田委員】 恵比寿の写真美術館にあるんですよ。コマグラという名前じゃないんですけど、経営が一緒に、メニューがこちらと同じです。

【山村副会長】 詳しいですね。

【原田委員】 たまたま行って食べたらこっちと同じのが出てきた。調べたら経営者が同じだった。

【中川委員】 知らずに行かれたんですか。

【河上学芸員】 写美で。同じ経営者ですね。

【事務局】 吉祥寺と写美と西荻でやっています。

【男性D】 手広い。

【山村副会長】 面白いね。いろいろな縁があるんだ。

【鉄矢会長】 あと、5ページ目に記載の鑑賞教室については、記載のとおり、一応実施予定ですよということ。

【河上学芸員】 大丈夫です。実施予定です。

【中村学芸員】 観賞教室に関しましては、現在、今年の鑑賞教室はこういった形で、富永親徳展の会期に全て集中してしまうという形になってしまいまして、当館の人員体制で見るとかなり厳しい状態に陥ってしまいましたために、現在、東京学芸大学のほうに学生ボランティアの募集というのを行っております。特に美術科の学生さんですとか、美術教育に興味のある方ですとか、それから、美術鑑賞教室に興味のある学生さんなんかに関わっていただくことで、単純なお手伝いということだけではなくて、鑑賞教育がどうい

ふうに行われていくのがいいのかとか、そういう手がかりになればなということで、現在、学生さんのボランティアを大募集しております。

【鉄矢会長】 大学が10月中ぐらいからしか、教育実習が終わってからしか始まらないので、すみません、反応が遅いと思いますけれども、もうちょっとお待ちください。

では、最後にその他について、皆様、また事務局から何かありましたら。次第のその他。

【事務局】 最初に話題も出ましたが、現在、エアコンの工事中です。この部屋は別系統のエアコンなので、今日は利いておりますが、大きなエアコンの部分が今改修中なので展示室等とはかからない状況になっております。ということで、今年、展覧会が1本少ないので、大体いつもこの回に皆さんに展覧会を見ていただいてから運協なんですけれども、今日はなしということで失礼いたしました。

以上です。

【河上学芸員】 すみません、空調工事、もうお話しされたかもしれないんですけども、資料2のほうのスケジュール表を御覧いただきますと、今の美術館の空調工事に関しまして、一番下のその他の部分なんですけど、9月20日というのが今日。御覧のとおり、ブルーシートがまだ敷いてあるような状態で、1週間ほど後ろに倒れて終わる予定ですので、現在のところでは来週の土曜日、早かったら金曜日に終わるというようなところで、今の工事の担当者のほうからは報告を聞いております。

すみません。以上です。

【鉄矢会長】 では、続いて、次回の運営協議会のスケジュールの予定について、どうか御意見はありますでしょうか。

【事務局】 次回、展覧会が11月2日から11月13日ということで、展覧会の会期中にぜひお越しいただければと思っております。

【山村副会長】 25か29の週がありがたいです。

【鉄矢会長】 何曜日がいいんですけど。

【事務局】 29日は、鑑賞教室があるのは、もぬけの殻みたいになっているかもしれない。そうしたら、木曜の28や、27とかでも私は大丈夫です。

【鉄矢会長】 私も27は大丈夫です。11月27日水曜日。18時30分。

【中村学芸員】 先に来ていただいて、見られる方は展覧会を見ていただいても。

【鉄矢会長】 18時半までに展覧会は見てもらってという感じで。

【山村副会長】 質問していいですか。富永さんの御遺族というのは、今、小金井に住

んでいらっしゃるんですか。

【中村学芸員】　いいえ、確認できている限りで、富永さんの御親族で、小金井に現在もいらっしゃる方というのはちょっといらっしゃらないみたいなんです。ただ、富永さんは、息子が多分6人、娘が2人いて、それぞれに子や孫がいるということで、親戚がかなり多いようでして、親戚の皆さんは、23区のほうで歯医者さんをされている方が結構多いので、都内にいらっしゃる方も一定数いらっしゃるんですけども、あと、地元が、もともとは熊本のおうちのようなので、熊本にも若干御親戚がいらっしゃるということです。なので……。

【山村副会長】　じゃ、小金井にいらっしゃる方はいないんだ。

【中村学芸員】　いないです。今のところ見つかっている限りで。

【河合学芸顧問】　アトリエというのにはちょっと制作した実態はないけれども、作品が置いてあった場所は小金井です。そこは意識的につくったわけでしょう。

【中村学芸員】　そうですね。もともとアトリエというふうに言われていた敷地を引き継いだのがどうも四男か、五男の方のようなんですけども、その方はお父さんの作品に非常に愛着を寄せていらして、自分は生涯その作品と一緒に過ごしたいということで、亡くなられるまで小金井にいらっしゃったみたいなんです。ただ、その方が亡くなられてから、やはり親戚の方で小金井市内に残っている方はいなくなってしまったようです。ただ、敷地はまだ残っています。

【山村副会長】　四男の方の息子さんとかは、つまり孫の方はいらっしゃらないんですね。

【中村学芸員】　孫の方が、実は今回の寄贈に当たっては、四男の方の娘さんが取り仕切ってくださったんですけども、娘さんは今、都内で歯医者さんをされていらっしゃいます。

【河上学芸員】　みんな歯医者さん。小金井の、今言ったアトリエという、倉庫みたいなところは、もともとはそこで息子さんは歯医者さんをされていたというふうに。だから、昔の人だと、東小金井の歯医者さんと言えば、多分富永さんというのを知っている方もいるんじゃないかなと。

【原田委員】　三鷹から移ってきたのが今の場所。

【河上学芸員】　そうですね。

【原田委員】　そう遠くはないよね。

【河上学芸員】 全然遠くないですね。

【原田委員】 中央線はまっすぐなものね。何もなかったところ。

【河上学芸員】 本当にすぐです。I C Uのところ。

【中村学芸員】 もともと三鷹にいたのが、中島飛行機の工場ができるというので立ち退いて、こちらに来たということなので。

【鉄矢会長】 地域的には取材というか、見ていくと、どう見ても井の頭公園とか、小金井の桜堤というのも、スケッチなんかが残っているので、ちょっとうれしい。

【河上学芸員】 ちょっとうれしい。

【原田委員】 ちょっとうれしいね。

【鉄矢会長】 じゃ、風景は台湾の風景と小金井の風景と両方。

【河上学芸員】 小金井は少しなんですけど、結構、武蔵野というか。

【鉄矢会長】 ちょっとですけどね。もっとあっていいと思うんだけど、ないんだ。

【河上学芸員】 9割、これは井の頭公園だというのが、地元の人ならすぐ分かるような、感覚的に分かるような、そういうスケッチが残っているので、多分知っている方だと、「おっ」となるという。

【鉄矢会長】 基本的な美術探偵団として一番楽しいところじゃないですか。

【原田委員】 これは前に伺ったかもしれない。そもそも、こちらの美術館に寄贈したというのは、遺族の方がこの美術館を知っていたんですか。それとも何かの御縁があった。

【中村学芸員】 市内にあるということで、お父さんの作品と同じ市の中にあるということで御存じではあったようなんです。ただ、富永親徳に関しては、生前、ほとんど公募展ですとか、そういうものに出していない画家で、そういったものを市場価値として考えると、正直なところ市場価値はないに等しい状態で、だからといって捨ててしまうということもできないし、どこかで、そういう意味でいうと資料的な意味も含めて活用できるころというのをないかというふうに探されてはいたそうなんですけれども、こちらのほうに声をかけていただきました。ただ、寄贈に当たって、かなり経年の劣化なんかもありましたので、実は、寄贈の前に御遺族のほうで、クリーニングですとか、修復ですとかというところをある程度費用をかけてやってくださいますて、展示できる状態にした上で当館に寄贈してくださるという、そういう形になりました。

【原田委員】 すごい縁なんですね。そういうときに地元にも美術館があるかないかで全

然違いますね。なかったら、その人はどうしたらいいんだろうと。

【中村学芸員】 当館としても、ただ小金井市内にいたというだけで、のべつ幕なしに作品を受け入れるというのはやっぱりちょっと美術館の趣旨としてもずれてしまいますので、その部分に関しては、今回、富永が東京美術学校に入って、中村研一とかなり近い時期にそこで過ごしているということと、恐らく同じような先生たちに習って、同じような絵の描き方というものをして、だけど、1人は画家のすごくアカデミックな大家になって、1人は、理由としてはまだはっきりしてないところもありますけれども、いつしかそういうふうには画家として偉くなるという選択をせずに、絵を描き続けることを選択したということかというと、すごく対照的なものであるし、一方で共通項もあるということで、当館に入れる意味というのは、ここじゃなきゃいけないという必然性みたいなものとしてあるんじゃないかということで、受入れを進めてきました。

【原田委員】 説得力ありますね。

【山村副会長】 立派なものだと思います。なんていうか、学校教育のいろいろなアカデミズムの、戦前のアジアへの広がりとか、そういう意味でも非常に意味があると思います。学校の美術教育の歴史関係もありますね。美術教育史の研究者・金子一夫さんの本にも出てくるんだけど、どこかの中学校か、高校の先生をしていたんだっけ？

【河上学芸員】 そうですね。今調べた限りで、結構いろいろところで先生をしていることが分かってきまして、立正高女ですとか、そういうところでどうも先生をしていた形跡があります。あとは……。

【鉄矢会長】 藤村もそうだね。

【山村副会長】 藤村女子大か。

【鉄矢会長】 女学校での美術教育というのは、自分が考えるのはどういうことだというのは書いたりしている。だよな。コピーしたような。

【山村副会長】 そういう意味もありますので、美術の学校教育を進めた人でもあるんだものね。

【鉄矢会長】 では、ほかになければ、これで第2回の運営協議会を終了したいと思います。ありがとうございます。

—— 了 ——